

特定非営利活動法人  
気象キャスターネットワーク

活動報告書  
2006年度

2007年2月23日 作成



NPO法人 気象キャスターネットワーク

〒110-0002

東京都台東区上野桜木1-14-21 高遠レジデンス上野桜木（地下1階）

TEL&FAX 03-3828-8694 MAIL: [info@weathercaster.jp](mailto:info@weathercaster.jp)

## 目 次

1. 会員の皆様へ
2. 理事会からのご報告
  - (1) 事務局の移転について
  - (2) ホームページアドレスの変更について
  - (3) 新スタッフ紹介
3. 会員数とネットワークの拡大
4. 2006年度の活動一覧
5. 環境教育社会活動のご報告
  - (1) 東京都環境賞知事賞を受賞
  - (2) 地球環境基金による地球温暖化出前授業
  - (3) 『地球温暖化のおはなし』—キリンググループ協賛—小冊子配布
  - (4) SHARPと協働の環境教育活動
  - (5) 日本財団助成事業「海の温暖化」
  - (6) エコライフ・フェア2006
  - (7) なごや環境大学
  - (8) 霞ヶ関見学ツアー
  - (9) 地球温暖化コンテンツの配信
6. 気象教育活動のご報告
  - (1) 気象キャスターの育成  
集中講座 ビギナー&マスターコース
  - (2) 会員向けのスキルアップ講座
    - ① ウェザーキャスター四方山話
    - ② メソスケール集中豪雨
    - ③ 写真で見るさまざまな空
    - ④ ツバルの現状を聞く
    - ⑤ ビデオカメラ撮影のテクニック
    - ⑥ 異常気象と地球温暖化について
  - (3) 体験ツアー <筑波山観測所施設見学>
7. 会員による講演活動一覧
8. コラム <空の美しさを多くの人に> 武田康男さん (会員)  
<4年目を迎えるWCNによせて> 北角友和さん (会員)  
<ツバルを訪ねて> 吉村友宏さん (会員)
9. 2007年度の活動予定
10. 事務局だより
  - (1) 事務局長のご挨拶
  - (2) 副代表のご挨拶
  - (3) スタッフ紹介

# 1. 会員の皆様へ

わたしたちNPO法人気象キャスターネットワークは、お蔭様で発足してから丸3年が経ちました。平成18年度は、東京都環境賞知事賞を受賞することができ、これも皆様の日頃の活動の賜物と感謝しております。

この一年は大きな二つの課題がありました。一つ目は、事務所の移転に伴う経費の増加をどうするか、二つ目は地球環境基金助成金事業の最終年度を迎え、来年度からご支援していただく企業をどうするか、ということでした。

しかし、皆様のご協力でこれらの課題をクリアすることができ、企業のご支援による新たな出前授業も始まりました。平成19年度の出前授業は大幅に拡大し、複数の企業との協働事業も予定されております。

ただ、新たな課題もあります。この3年間は「環境教育」と「気象教育」中心の活動でしたが、わたしたちのもう一つの理念「防災教育」にも取りかかりたいと考えています。会員の皆様には引き続きご協力とご鞭撻のほど、よろしくお願い申し上げます。



気象キャスターネットワーク  
代表 平井信行

## 2. 理事会からのご報告

### (1) 事務局の移転について

2006年4月、事務局を現在の場所に移転いたしました。スタッフのご協力もあって機能性が高まり、事務作業が大変しやすくなりました。会員の皆様、お近くへお越しの際は、ぜひお気軽にお立ち寄りください。新しい住所と電話番号は以下の通りです。

〒110-0002

東京都台東区上野桜木1-14-21 高遠レジデンス上野桜木 地下1階

TEL&FAX 03-3828-8694 MAIL info@weathercaster.jp



事務局のようす

## (2) ホームページアドレスの変更について

2007年1月、ホームページのアドレスを変更しました。会員の皆様には、切り替えにあたりご不便とご心配をおかけしましたことを、改めてお詫びいたします。サーバーの移転作業にご協力いただいたスタッフの皆様、ありがとうございました。

新アドレス及び新メールアドレスは以下の通りです。

<http://www.weathercaster.jp>

[info@weathercaster.jp](mailto:info@weathercaster.jp)

## (3) 新スタッフについて

今年秋から2名の新スタッフが入りました。

- ・武田恭明（25才）元気象会社 北陸支店 営業担当・気象予報士
- ・前田恵（気持ちは25才）元宝石店 店長

電話やメールで皆様にご連絡をさせていただきます。どうぞ宜しくお願いします。

---

## 3. 会員数とネットワークの拡大

今年の会員数は、

正会員 40名 一般会員 45名 合計85名（内新規25名）です。

前年度と比べると、地方からの正会員の増加が目立ちました。

会員は、北海道・青森・宮城・石川・福井・東京・埼玉・千葉・神奈川・茨城・群馬・長野・愛知・岐阜・三重・大阪・京都・兵庫・広島・岡山・熊本・長崎と、全国に広がり、ネットワークが拡大しております。

来年度は、全国の会員の皆様が参加できるような、勉強会、イベントなどをより多く企画して参りたいと思います。

## 4. 2006年度の活動一覧

- 2月 総会&懇親会
- 3月 講座 <ウェザーキャスターの四方山話>
- 4月・気象環境ツアー <筑波山観測所 施設見学>  
第5回気象キャスター集中講座 ビギナーコース  
・東京都台東区谷中でのお花見
- 6月 エコライフ・フェア 2006  
講座 <メソスケール集中豪雨>  
講座 <写真で見るさまざまな空>  
講座 <ツバルの現状を聞く>
- 7月 講座 <ビデオカメラ撮影のテクニック（実習編）>  
第6回気象キャスター集中講座 マスターコース
- 8月 地球温暖化講座 <異常気象と地球温暖化について>  
なごや環境大学「親子で学ぼう！地球温暖化」
- 10月 第7回気象キャスター集中講座 ビギナーコース
- 12月 忘年会

## 5. 環境教育社会活動のご報告

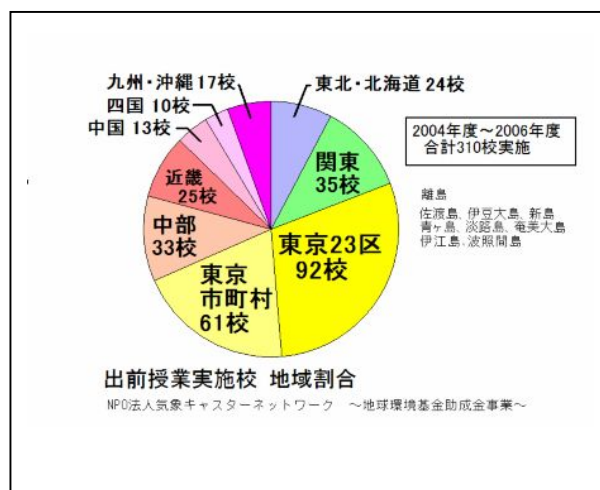
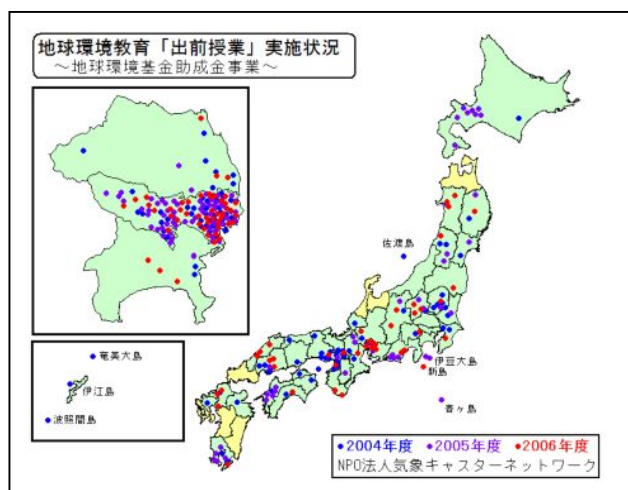
### (1) 東京都環境賞知事賞を受賞

平成17年度、都内73の小中学校等で「地球温暖化出前授業」を実施し、都の環境教育事業に貢献したことが評価され、平成18年6月20日、都庁第1本庁舎7階ホールで東京都環境賞の贈呈式が行われました。



### (2) 地球環境基金による地球温暖化出前授業

環境再生保全機構・地球環境基金の助成を受けて実施している活動です。助成期間3年の最終年度となりました。2006年度は前期、後期ともに50校ずつ、合計100校の小学校や中学校に出向き、出前授業を実施いたしました。気象キャスターネットワークの正会員になっている気象キャスターが講師を務め、地球温暖化について考える講義と実験を、それぞれ1時間ずつ行い、地球の将来を担う子供たちに熱いメッセージを託してきました。



## ■ 出前授業講師 体験談

元日本テレビ気象キャスター 中嶋美年子さん (会員)

<地球温暖化防止は小さな一歩から>

地球温暖化がマスコミなどでも騒がれる中、本当に危機が迫っていることを実感しながら生活している人は少ないと思います。私自身、未来の地球の状態よりも、今現在の日常の方がどうしても気になってしまいます。でも、長年の気象キャスターと言う仕事を通して、台風の多さや高温、多雨などの異常気象。今までとは何か違ったデータを目にすることにより、少しずつ地球に変化が起きていることを理解するようになりました。その理解をいろんな人々に広めることが、私たちの役割だと思っています。ただ、地球温暖化という言葉を知るだけではなく、子供たちに現在の地球の状態を知ってもらい、今後どうしたら良いか？このまま温暖化が進んでしまったら、声を出せない動物達は誰に訴えたらよいか？そんな思いを子供たちに投げかけると、子供達は真剣なまなざしで考えてくれます。そして実行に移そうとしてくれます。小さな力かもしれませんが、未来を背負う彼らの口コミが大人を動かすことも多いと思います。無理をせず、小さなことから始める！それが私達の授業も小さな一歩と言う意味では同じだと思います。これから、何人の子供達に出会うか分かりませんが、小さなパワーを大きなものに変え地球温暖化防止活動に役立てたら、いいなあ～・・・。とっております。



## ■ 出前授業サポートスタッフ 体験談

東京大学大学院修士課程2年 小田切幸次さん (事務局スタッフ)

<子供たちに教えられたこと>

私は大学の先輩の紹介で、事務局の仕事をお手伝いさせていただくようになりました。最初は実験道具の手配や後輩への実験指導にあたっていましたが、昨秋からは教室で子供達とふれ合う機会をいただき、サポートスタッフとして出向いた学校はもう10を数えます。子供達に直接、二酸化炭素の温度の上がり方が空気とは異なることを伝えたいと思ったのが始まりでした。

出前授業を受ける前から環境教育に力を入れている小中学校も多く、「エネルギーを減らすために何かしていることは？」という講師の方の問いかけに、我々を驚かせるような答えを返す子供もいて、その勉強ぶりには感心させられました。環境に危機感を持って省エネに真剣に取り組んでいる子供が思った以上に多いことを知ることができたのは、出前授業での大きな収穫です。

地球の将来のために、環境教育がとても重要であることを、子供達が教えてくれたような気がします。未来を担う子供達にそれを分かりやすく伝えていくこの出前授業は、第一線で活躍中の気象キャスターが集まったこの「WCN」にしかできない、とても価値ある社会貢献活動だと思います。今後も影ながらサポートさせていただき、地球温暖化の防止に少しでも役に立ちたいです。

## ■子供たちからの手紙

これまで出前授業を受けてくれた子供の数は約3万人。そんな子供たちから、沢山のお礼の手紙が事務局に届いています。



## (3) 『地球温暖化のおはなし』—キリングroup協賛—

地球温暖化出前授業を受講された生徒の皆さんにはキリングroupの協賛で作成しました『地球温暖化のおはなし』の小冊子を配布しています。出前授業の内容のまとめが書いてあり、「読みやすい」「わかりやすい」という声が寄せられています。



#### (4) SHARPと協働の環境教育活動

2006年10月からSHARP株式会社と協働で、小学校高学年を対象にした出前授業を開始しました。気象キャスターネットワークの講師は、異常気象と地球温暖化についての解説、二酸化炭素の実験担当し、シャープ側の講師が、リサイクルや自然エネルギーの解説、実験を行なう企業との協働の環境教育活動です。出向いた小学校は、北海道から九州まで55校(今年3月まで)。企業と協働で授業を行なうことにより、実験などより充実した内容になって、伺った学校からは高い評価を頂いています。

また、東京・大阪でシャープと共同の記者会見を行い、一般紙から、業界紙、教育関係の新聞とその内容は広く掲載されました。

来年度は年間500校を目標とし、前期だけで200校に拡大する予定です。

全国の会員の皆様、ご協力をお願いします。

#### ■ SHARP環境教育活動講師 体験談

MBSラジオ NHKラジオ気象キャスター 南利幸さん (会員)

<子供を導き、そして託す>

我ながらよく出来た授業だと感心しています。気象キャスターが温暖化の内容や身の回りの変化を紹介しながら温暖化を防止するための個人の努力を促し、シャープが企業の努力と社会への貢献を紹介する。たった2時限の授業の中に盛りだくさんの内容が詰まっています。

2月初めに公表されたIPCCの第4次評価報告書は、化石燃料を重視する社会を継続させると、世界の平均気温は今世紀末には20世紀末より4℃上昇すると予測しています。現在すでに温暖化の影響で、気象状態は今までとは違った別のステージに入ったかのような振る舞いを見せていますが、今後はさらに激しい現象の発生が予想されています。

この環境授業により、次世代を担う子供たちの多くが温暖化の認識を共有し、共通の目的に向かって進む手助けになればと思うと同時に、子供たちが大人になったときに温暖化防止の最善の知恵を出してくれればと考えています。つまり授業は「導く」と「託す」の二つの意味が含まれているのだと思います。授業を真摯に受け止める子供たちの目は輝いています。環境授業を行う自らが置かれている立場の重責を感じると共に環境教育のスペシャリストとして職責を全うしなければならないと、教壇に立つたびに思うのでした。



## ■ SHARP 環境教育活動講師 体験談

元三重テレビ放送アナウンサー 伊藤伸子さん (会員)

<環境教育活動に参加して>

私が初めて講師として子どもたちの前に立ったのは、10月25日。本来なら秋が深まってゆく頃のはずなのに、その日はとても暑くて、半袖のTシャツ姿の子もいた。「もうすぐ11月なのに半袖でも暑いくらいだなんて、なんかおかしいよね？」そんな話をした覚えがある。

子どもたちの多くは「地球温暖化」という言葉は知っていても、そのために地球が、日本がどうなっていくのかというイメージはできていないようだ。

この活動に参加させていただいた今年の冬は暖かい日が多かったこともあり、「地球温暖化」の問題を、より現実的に感じさせられた。地球温暖化は100年後の遠い未来の問題ではなく、今、現実に行っているのだということを感じ取ってもらいたくて、私の持っている知識を総動員しながら授業を進めた。私の話によって、子どもたちが地球温暖化の問題に興味を持ち、そして地球を守るために行動するきっかけになってくれたら、これほどうれしいことはない。

ところで、先日、母と買い物に行ったとき、何年かぶりにほめられた。「買い物袋を持ってきて、偉いね」と。

子どもたちにすすめている以上、私がまず実践しなくては！

## (5) 日本財団助成事業「海の温暖化」についての調査

海の温暖化の最新の知識を、全国各地の研究者にヒアリングしてそれを元にした小冊子と動画コンテンツを作成中。

来年度はその内容を元に全国の中学校20校に出前授業を行なう予定です。

**今起きている現実**  
海水温上昇  
**熱帯魚がやってきた**

初めて、お世話になります。  
ハナクマゾミです。  
南から引っ越してきました。

**天草からの報告**

海の生き物に国境はありません。生存しやすい環境を求めて移動していきます。  
九州の西の端、熊本県天草市。この海に、今までめったに見られなかった熱帯の海に住むハナクマゾミがすみ始めました。  
今、天草だけでなく、日本中の海で異文化コミュニケーションが始まっています。

1981年  
1995年  
海藻が消失  
サンゴだらけの海に・・・

**なぜ熱帯魚？**

天草の水温はここ40年間で2℃上昇している。冬でも、海の中では13℃以下だ。  
その結果、今までは、海藻とサンゴが共存していたが、海藻がなくなり、サンゴが繁殖するようになってきた。  
以前なら、寒さで死んでしまっていた、熱帯の海の魚が繁殖できるようになってきた。

**招かれざる客**

海が温暖化することでやってくるのは、カラフルな熱帯魚だけではありません。あまり聴かない生物が増える可能性もあります。ここ最近、日本海から三陸沖にかけてエチゼンクラゲが大発生し、網が破れてしまったり、他の魚がつぶされてしまったりしています。海の温度が上がってきていることが原因ではないかといわれています。また、瀬戸内海では、1988年以降、高水温を好むプランクトンが大発生し、その赤潮で養殖の力や魚が死滅する被害が起こっています。また、海水温が上がり生態環境が悪くなったため、数が増えず、エサとなる海藻などが食べつくされ、生態系が崩れてしまっている恐れも指摘されています。

**これから、何が起こるか？**

海水が暖かくなり、南の海のサンゴや魚が増えることは悪いことではないように思えるかもしれませんが、そこに元々いた生物はどうなるのでしょうか？海温があるから生きられるウニやあわびはいなくなってしまうかもしれません。それは、地元の漁師さんたちの暮らしを大きく変えてしまうことにもつながるのです。

温暖化というと、地上ばかりに目を向けがちですが、この活動により、陸上だけではなく海の温暖化についても実感することができました。

## (6) エコライフ・フェア2006

竹田宜人さん (会員)

2006年6月3日(土)及び6月4日(日)の2日間、代々木公園ケヤキ並木において環境省、東京都、渋谷区、(独)環境再生保全機構等で構成される「エコライフ・フェア2006実行委員会」が主催し、文部科学省、農林水産省、経済産業省などが後援した「エコライフ・フェア2006」に東京都環境局と共同出展しました。

今回の展示のテーマは、「東京都の地球温暖化対策について」でしたが、気象キャスターネットワークは、東京都の事業に協力して、平成16年度から都内で地球温暖化出前授業を都内小中学校で推進しているため、エコライフ・フェアにおいても、児童や一般の皆様楽しんでいただけるような催しとしました。その内容は以下のとおりです。

### ■雲画像地球儀作り (100個)

ただの地球儀ではなく、雲画像をつかった地球儀製作です。20分間ほどで、でき上がります。大人も子どもも楽しんでいただきました。二日目の午前中には、完売状態でした。



### ■100年後の天気予報

「お天気キャスター体験」として、テレビの天気予報でよく使われるクロマキーを使い、気象キャスター気分で100年後の温暖化が進んだ日本の天気予報をしてもらいものです。最高気温45℃など、体験したくないデータを読み上げてもらいましたが、それなりに楽しんでいただけたようです。その際に、撮影した写真は、プレゼントしました。



### ■パネル展示・リーフレット配布

都の温暖化対策制度の紹介として、パンフレット、リーフレットを配布し、併せて遠藤秀一さんのツバルの写真を展示しました。



二日間とも、好天に恵まれ、多くのお客様において戴き、気象キャスターネットワークの良いPRになりました。



## (7) なごや環境大学

元テレビ愛知気象キャスター 杉山範子さん(会員)

「なごや環境大学」は一般的な「大学」ではなく、市民や NPO、企業、大学、行政などが環境に関する知識・経験・問題意識を持ち寄り、幅広く市民講座・シンポジウムを展開する環境学習事業です。名古屋地域の学習施設、大学や学校の教室、企業の施設、空店舗・空スペース、森や川などの身近な自然・・・、街中をキャンパスに見立て、様々な共有講座を開講しています。「共有」とあるように、講座は環境に関心のある人なら誰でも受講でき、また、講座を開講することもできます。

WCN では、2006 年の夏に地球温暖化を学ぶ講座を企画、開講しました。これまでの出前授業のノウハウを活かし、対象を親子に広げ、午前・午後の時間を通じてじっくり学び、考える場にしてもらおうという企画はちょっとした挑戦でもありました。

まだ WCN のメンバーが少ない

東海地方でキャスターさんや気象予報士さんに声をかけ、新しい輪を作ることもひとつの目的でした。

幸い、多くの方にご協力いただき、講座を無事に

終了することができたことに感謝しています。参加者、なごや環境大学の事務局、名古屋市から高い評価を得る

ことができ、今年の夏にもまた講座を開講する予定です。このような地域での協働

事業に積極的に参加することにより、

今後も、環境活動の輪を広げ、地域でのネットワークを構築していきたいと思います。



---

## (8) 霞ヶ関見学ツアー

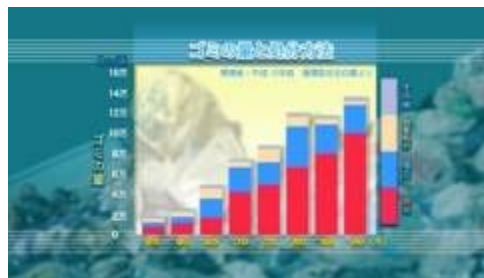
8月23日・24日の2日間にわたりこども霞ヶ関見学デーの一環で環境省にて『地球温暖化の話』やクロマキーシステムを使用し『気象キャスター体験コーナー』を行ないました。

そこで撮った写真はプレゼントし、評判もよかったです。



### (9) 地球温暖化コンテンツの配信

環境省チームマイナス6パーセントから委託されている温暖化コンテンツも今年で3年目を迎えました。温暖化に関する最新の話題と画像を全国の報道機関に無料で配信しています。画像はそのままテレビやラジオ、新聞などで使用する事ができます。今年度は配信希望の局が大幅に増え、12月からは全国でおよそ60の局に気象キャスターネットワークで作成したコンテンツを配信中です。



## 6. 気象教育活動のご報告

### (1) 気象キャスターの育成

2006年も気象キャスターの育成に力を注いできました。その主な活動は集中講座の開催です。今年度は3回の講座を開き、ビギナーコースを終了した人の為に、新たに「マスターコース」を設け、より内容を充実させました。今年度からは年に2回実施されている気象予報士試験の東京会場2か所で、講座のビラ配りも始め、新たな受講者も増えています。受講生の中には実際に放送局の気象キャスターオーディションにチャレンジした方もいらっしゃいました。来年度も気象キャスターの育成にはいっそう力を注いでいく予定です。

#### <集中講座 ビギナー&マスターコース>

##### 2006年度に実施した講座

4月～	6月	第5回気象キャスター集中講座ビギナーコース
7月～	8月	第6回気象キャスター集中講座マスターコース
10月～	12月	第7回気象キャスター集中講座ビギナーコース

## ■講師からのエール

気象キャスターネットワーク監事 高田齋氏 (NHK気象キャスター)

<観る、作る、伝える>

人の能力を育て成長させる基本的な一つとして、昔風では「読み、書き、そろばん」であったでしょう。皆さんの今を表現するならば、それは「観る、作る、伝える」ではないだろうか。

「観る」すなわち解析力と知識の蓄積。これまでの現象の変化や動き、そして種類をきめ細かく解析してすばやく掴む事、予測されるであろうことを読み取り、広い幅を持ってつながりのある見方をすること。

次に「作る」に求められることは判断力とセンスである。ここではいかに内容の充実した物に作り上げるかにかかる。それは理論に沿った、時系列的に正確なものに仕上げるかの瞬時の判断である。さらに考える事は現象をいかに表現することが一番適確か、専門用語を並べると良いというものではなく、そこにセンスが問われし自分も納得する物でなければならない。

最後の「伝える」これは想像力とここでもセンスであろう。「観て、作った」物をいかにわかりやすく伝える技を会得するか。これをクリアできないではせっかくの技術も台無しである。何をポイントにするか、何を伝えたいかを適確に見極める事、そしていかに余分な情報を削り落とす力をつけられるか。限られた時間内に情報を凝縮できるか。

講座を受ける意義はこれらを学ぶところにある。受講した後はイメージトレーニングと反復運動の繰り返しが良い。皆さんの頑張りに期待します。

## ■受講生の声

勝又幸恵さん (会員)

<解説の難しさ痛感>

『情報の中から、自分の切り口でテーマをすくいあげる事』、『裏づけをもって、正しく相手に伝える事』、『制限時間の中で、誰にでも分かりやすく解説する事』、これらの難しさを、講義では痛感することになりました。はじめての取り組みとなりましたが、多くの発見があり、引き込まれていきました。その理由は、講師陣の丁寧で、内容の濃いご講義、手厚いフォローアップ、又何よりも、少人数制の為、きめ細やかで、対話式に回答して頂けることでした。更には、各講師の長年の経験による信念に基づいた意見を拝聴できることで、生徒である私の熱意をも、より一層活性化して下さったように思います。

私にとって踏み込んだことのない業界への畏怖が常にありますが、励ましてくださる講師の方々の暖かいお人柄に、一視聴者、一生徒としても、尊敬しきりでした。気象業界の広い範囲で、個々に活動され、現役で幅広く活躍されておられる方々ばかりである事、その理由を改めて感じる事となりました。

---

## (2) 会員向けのスキルアップ講座

2006年も会員の皆様に知識を高め、技術を習得していただくための講座を多数開催いたしました。各界の第一人者を講師としてお招きし、心に響くお言葉や意欲をかきたてられる励ましをいただき、最先端の科学には主催した私たちでさえ驚かされました。とても有意義な講義だったというご感想を多くの方からいただき、このような機会をもっと増やして欲しいというご要望もありました。受講生の数は、来年度も全国ネットワークのNPOならではの講座を開催する予定です。ご期待ください。また、素敵なアイデアがありましたら、どんどん事務局にお知らせください。



2006年度  
講座一覧

- ① ウェザーキャスター四方山話  
講師 倉嶋厚先生 元鹿児島地方気象台長 NHK解説委員
- ② メソスケール集中講座  
講師 加藤輝之先生 気象研究所 予報研究部第一研究室 主任研究官
- ③ 写真で見るさまざまな空  
講師 武田康男先生 「世界一受けたい授業」(日本テレビ)出演
- ④ ツバルの現状を聞く  
講師 パーニ・K・ラウペパ先生 ツバル外務省 外務次官補  
遠藤秀一先生 NPO法人Tuvalu Overview代表
- ⑤ ビデオカメラ撮影のテクニック  
講師 町田博祐先生 日本テレビカメラマン
- ⑥ 異常気象と地球温暖化について  
講師 石原幸司先生 気象研究所

#### ■受講生の声

～倉嶋厚先生の講座「ウェザーキャスター四方山話」を受講して～

北角友和さん (会員)

<歴史や極意、そして人生訓も>

気象の世界に携わる者にとって、倉嶋厚先生は神様のような存在と言えるでしょう。残念ながら私は、先生のキャスター当時を存じあげないのですが、その多くの著書から学んだものは計り知れません。その倉嶋先生が、後進のために講座を開いてくださると聞いて喜んで受講させていただきました。

気象事業の歴史から始まって、テレビ気象解説の極意や、人生70点主義(落第点を取らずに、時に百点も取る)といった人生訓まで、お人柄が表れたやさしい語り口でお話していらっしゃいました。また、出演されていた当時のニュース映像も流れましたが、ミリバールの表現には時代を感じつつも、その解説手法はあくまで斬新で現在に通じるものがあって、古さを感じさせませんでした。

さらに倉嶋先生のご登場とあってか、テレビ画面で拝見する現役気象キャスターの方々も多く受講されていました。既にそれぞれに独自の解説方法をお持ちの方達ばかりですが、ひとりの受講生としてパイオニアの話に熱心に聞き入っている姿も印象に残りました。

これからは、先生のおっしゃるとおり、気象学以前からある暮らしの中の美しい日本語を大切にしていきたいと思います。今後も、各界の第一人者をお招きした講座の開催を期待しています。

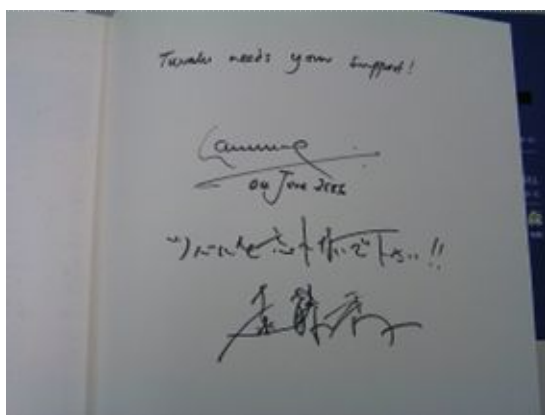
## ■受講生の声

～海面上昇により沈む島からのメッセージ「ツバルの現状を聞く」を受講して～

大友健さん（会員）

<ツバルの声 痛切>

私は出前授業やテレビ報道を通して、将来海に沈んでしまう島国がある、ということは知っていましたが、その危機感を正しく理解していませんでした。ツバルに行ってみたくは、なかなかチャンスがない。でも、ツバルの人たちの生の声を聞いてみたい。そう思っていたとき、この講座のことを知りました。ツバル外務省外務次官補パーニ・K・ラウペパ氏のお話を聞いたことは、かけがえのない経験になりました。海水によってイモが育たなくなったり、井戸水がしょっぱくなったりする。飲料水は雨水に頼りたいけど、雨はあまり多くは降らない。満潮になると海水が湧き出てくる土地で、多くの人暮らしている。その原因は私たちの住む先進国にあるということをもっと重く受け止めなくてはならないと思い知らされました。ツバルでは将来必ず移住しなければならないときがくる。でも、全員を移住させるのは難しいということです。ツバル人は『自分の住む土地を守りたい』と強く願っているのだそうです。いま自分にできることは何か、を改めて考えてみたいと思います。



### (3) 体験ツアー <筑波山観測所施設見学>

この施設は2001年12月まで気象庁の観測所として使用されてきました。2005年に筑波大学学内プロジェクトによって再整備されました。目的は研究目的なのですが、将来的には様々なデータを公開したいということもあり、測器は検定に合格しているものを使用しています。この筑波山のデータを得ることによって北東気流や降雪の監視などに使用ができ、防災上とても重要な情報を得ることが出来ると期待されています。



## 7. 会員による講演活動

### (1) 講演一覧

今年度も多くの自治体や企業、団体から講演の依頼をいただき、会員の皆様にご活躍いただきました。皆様お忙しい中、ご協力ありがとうございました。

#### 1月～7月

- 1月 えどがわエコセンター講演会（岩谷忠幸）
  
- 3月 ニッポン放送地球温暖化イベント（岩谷忠幸、藤井南美）  
四季の自然舎カヌー講座（坂井一樹）  
キリンビバレッジ講演会（村山貢司、岩谷忠幸）
  
- 4月 長野県温暖化防止推進センター講演会（藤井南美）
  
- 5月 コープ神戸講演会（南利幸）
  
- 6月 コープ神戸講演会（南利幸、片平敦）  
環境省仙台講演会（高田斉）  
キリンビール社員研修（村山貢司）  
彩の国エコロジーセンター（岩谷忠幸）  
J Pハイテック講演会（藤森涼子）
  
- 7月 東京都環境局講演会（藤森涼子）

## 8月～12月

8月 大塚製薬FM放送（藤井南美）  
国連こども環境会議（鶴田由香）  
FM東京出演（藤森涼子）  
加須公民館講演会（坂井一樹）  
環境省子ども霞が関見学デー（平井史生、横山容子）  
品川区環境情報活動センター講演会（岩谷忠幸）

9月 館山市公民館講演会（岩谷忠幸）  
墨田区エコライフ講座（高田斉）  
名古屋市瑞穂区講演会（杉山範子）

10月 東京都消費者団体講演会（藤森涼子）  
大東文化大学第一高等学校講演会（平井史生）

11月 東京都職員研修会（平井史生）  
江戸川区役所講演会（岩谷忠幸）  
西宮市講演会（村山貢司）  
目黒区社会教育講座 <憧れの気象予報士>  
講師：福田寛之 島下尚一

12月 練馬区消費者連絡センター講演会（高田斉）

## 8. コラム

～空の美しさを多くの人に～

武田康男さん (会員)

空の美しい現象に興味を持ち、30年ほど写真を撮り続けています。想像を超えた姿をしていることが多く、その観察のタイミングと撮影技術は、経験してわかることがたくさんあります。

ダイヤモンドダストとサンピラー



目で見えた光景がなかなか写真にうまく現れてくれないことがあります。特に虹などは微妙な色彩が思うように写りません。何度も失敗し、カメラやフィルムの選定、そして露出の合わせ方などを覚えてきました。フィルムカメラとともに、性能がよくなったデジタルカメラも最近は利用しています。

夜明けの吊し雲



積乱雲と朝日

多くの現象はほんの数分間で終わってしまい、事前に予想することも必要で、天気図や衛星画像などの資料とともに自分の感性も大切です。



ハワイの虹

気象現象にはこんなにさまざまなものがあったのかと、自分でも感動しています。そして同じ現象は二度とないと思うと、その一瞬を大切にしなければという気持ちが沸いてきます。この感動をみなさんにも知って欲しいと思い、本を出版したり、講演活動を行っています。

～4年目を迎えるWCNに寄せて～

北角友和さん (会員)

梅二月も半ばを過ぎて、日に日に春の足音が近づいてきました。街も少しずつ、春の息吹に包まれ始めたような気がします。そんな中、今年もWCNの総会を迎えましたが、一年が過ぎるのは本当に早いものだと実感しています。

思えば総会が開かれる早春2月というのは、風光る、水温む、日脚伸ぶ、春隣り、などの季語が並び、希望を感じさせてくれる好きな季節シーンの一つです。人間も含めた自然界すべてが立ち上がっていく感覚ですね。

『春風や 闘志いだきて 丘に立つ』(高浜虚子)

WCNも立上げから、事務所移転も含む3年間の揺籃期を過ぎて、これから地に足を着けた発展期を迎えようとしています。言い換えれば、これまで以上に、内外に対して責任や実績が問われるとも言えそうです。

4年目を迎える気象キャスターネットワークですが、『年年歳歳花相似たり、歳歳年年人同じからず』の詩句どおり、多士済々の強みを活かして、これまで以上に今年も多くの花を咲かせていきましょう。

平成19年2月24日 正会員 北角友和



～ツバルを訪ねて～

吉村友宏さん (会員)

2006年7月15日ついに念願のツバルへ。  
飛行機を3回乗り継ぎ、約14時間かけてツバル・フナフチ環礁のフォンガファレ島に着きました。  
写真や映像で見たのと同じ海・空・雲が目の前に広がっている・・・感動しました。と同時に、これがいつか海に沈んでしまう島だと思ふと複雑な気持ちになりました。



環境省のポーニさんに島の生活の問題点を聞きました。

- \* 輸入製品が増えているが、島を汚染するものばかり。
- \* 汚染物質が地下水を汚している。
- \* 最近、健康を害する人が多い。(水などの影響)
- \* 降水パターンの変化により、水不足が相次ぐ。
- \* このところ激しいスコールが頻繁に起こっている。
- \* 波による島の侵食状況は年々悪化している。
- \* 作物に危害を及ぼす虫が多く見られるようになった。

・・・・・・訴えは切実でした。

フナファラ島の近海の美しさは格別でしたが、30年前までは陸だった聞きました。  
砂浜に木の杭のような物が刺さっています。  
10年前まで、ここに家が建っていました。  
海面上昇による被害が多く、ここから約20m内陸に家を移動させたそうです。



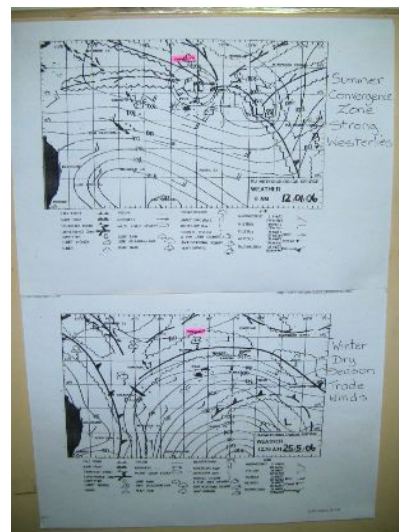
環境保護エリアにあるバサフワ島では、どこかから流れてきたゴミが多く、錆びた冷蔵庫までありました。

波で砂が削られ、椰子の木が何本も倒れていました。以前よりも被害が大きくなっているそうです。この写真以外にも荒れ果てた現場は数知れず、現地の人にかかる言葉が見つかりませんでした。



海水を真水にする装置「ウォーターボーイ」です。しかし、部品が足りないため、1台は動いていません。

ボートでアマツク島の水兵学校へ行き、訓練施設を見学しました。事務所には南太平洋の夏と冬の天気図がありました。うれしい発見です。



ツバルの気象台です。ほとんど人はいませんでした。フライト時にやっと人を見かけた位です。

MEMさんのお宅です。家庭料理をご馳走になりました。とてもおいしかったです。ギター片手に唄も披露してくれました。心温まるおもてなしに大感激です。でも、温暖化が進めば、この人たちの住む島はいつか海に沈んでしまうのです。帰りの飛行機の中で、いろんなことが頭を駆けめぐりました。いま僕にできることはなんだろう・・・ツバルでの体験は、WCNの活動の中で大いに生かしていきたいと思っています。



## 9. 2007年度の活動予定

- 1月 ダイエー&チーメックス6%クラブ「温暖化講座」
- 2月 気象キャスター集中講座（マスターコース）＜全6回＞
- 3月 気象講座＜全4回＞  
ダイエー&チーメックス6%クラブ「温暖化講座」
- 4月 SHARP 協働環境教育出前授業開始（年間500校）
- 5月 環境教育出前授業開始（キリンほか協賛）
- 6月 環境教育モデル授業開始（日本財団助成）
- 7月 気象キャスター集中講座（ビギナーコース）＜全8回＞
- 8月 なごや環境大学 親子講座  
夏休み親子環境講座（品川区・伊藤忠他）
- 10月 気象キャスター集中講座（マスターコース）＜全6回＞

年間 気象講座を随時、開催予定。

## 10. 事務局だより

### (1) 事務局長のご挨拶

〈ネットワークを支えるチームワーク〉

地方の会員が増えて、ネットワークが全国に広がりつつあります。とても嬉しいことです。地球環境や防災の教育活動は一人では微力でもチームワークによって大きな活動ができると思います。今後も地球環境や防災のメッセンジャーとして、ご協力をお願いします。



事務局長 岩谷忠幸

### (2) 副代表のご挨拶

〈飛躍の予感！〉

平井さんと岩谷さんと私、たった3人で設立したNPOが、3年でこんなに大きく忙しくなるとは思ってもみませんでした。会員の皆さんが地道にやってきた活動がやっと全国に広まりつつあります。今年は更なる飛躍を目指して、皆で一緒に頑張りましょう！



副代表 藤森涼子

### (3) 事務局スタッフ紹介

事務局は、多くのアルバイトスタッフに支えられています。それぞれ本職を持ちながらNPOの活動に参加していますので、いつも事務局にいるわけではありません。だからこそ「報告、連絡、相談」を欠かさず行い、事業が滞りなく運営できるよう力を合わせています。会員の皆様とは電話やメールでのやりとりが主ですが、今後ともよろしく願いいたします。

〈吉村友宏〉 担当：出前授業サポート、実験道具の管理、配送

植物の知識豊富！ダイビング大好き！料理得意！そんな僕、気象キャスター目指しています

〈大友健〉 担当：出前授業サポート、助成金関連事務

出歩き大好き人間。日本全国を飛び回って多くの方と出会い学んでいきたいと思っています。

〈武田恭明〉 担当：出前授業サポート、事務全般、問い合わせ対応

WCNの電話番。皆さんと出会えたご縁を大切にと思っています。(ちゃんと)電話出てくださいね。

〈前田恵〉 担当：事務全般、問い合わせ対応

WCNの掃除当番!? まだまだ未熟ですが、皆様のサポートを責任感を持ってやらせて頂きます。

〈島下尚一〉 担当：企画

ε - v - 3にあごヒゲをつけると私の顔になります。確かめたい物好きな方は事務局へ。

〈川瀬宏明〉 担当：ホームページ

気象予報士の大学院生です。研究と天気予報という違った面から気象を見ています。

〈小田切幸次〉 担当：出前授業サポート、事務補助

大学院で関東の雪と温暖化について研究をしています。それは単純に雪好きだからです

本書作成にあたりコメントをお寄せいただいた皆様、誠にありがとうございました。編集の都合で校正させていただいた部分もございます。何卒ご了承ください。